



研究テーマ : 財務会計, 簿記, 電力会計, 簿記会計教育

研究者 : 吉本 圭一郎

YOSHIMOTO Keiichiro

(経営経済学部経営経済学科 准教授)

【研究・開発の目的】

東日本大震災以降、原子力発電所の廃炉や電力自由化、発送電分離など、電力会社を取り巻く環境が大きく変わっています。研究では、近年頻繁に改正された電力会計を中心に、電力会社における会計学的諸問題について取り組んでいます。

【研究・開発のきっかけ】

以前、実務で電力会社の決算業務にたずさわっていた経験から、電力会社特有の会計処理、特に原子力発電所の廃炉に係る会計処理に興味をもち、研究をはじめました。

【研究・開発の概要と特色】

電力会社では一般的な会計処理が求められる一方で、ケースによっては電力会社特有の会計処理も求められます。近年、電力会社における財務会計面の諸問題について、経済産業省の財務会計ワーキンググループによる報告書が公表され、電力会社の会計処理に影響を及ぼしました。研究では、このような業界の動向をふまえたうえで、会計諸法規の変更が電力会社に及ぼす影響などを中心に、電力会社の会計学的諸問題について研究しています。

【今後の展望や課題】

東日本大震災以降、電力会社の経営環境は大きく変化していきます。2016年4月より電力の小売全面自由化が始まり、2020年4月以降は料金規制の撤廃が予定されています。また社会ではスマートメーターが普及し、再生可能エネルギーの推進も求められています。さらに運転開始から40年以上が経過し、老朽化した原子力発電所が今後増えてきます。このように電力業界全体が変化しているなか、これからいかに原子力発電所の廃炉を円滑にすすめていくか、またその資金をどう確保していくかが、今後の大きな課題となってきます。そこでこれらの課題について、会計学的側面から研究をすすめていきたいと考えています。

【その他の情報】

「廃炉の会計の動向と電力会社への影響」(日本社会関連会計学会第30回全国大会2017年10月, 法政大学) 「電力会社における廃炉の会計処理とその影響(関西電力・九州電力を中心に)」(日本簿記学会第32回全国大会2016年8月, 大阪経済大学)等

【地域・企業へのメッセージ】

電力会社の会計学的諸問題のひとつに電気料金の問題があります。電気料金は、いうまでもなく国民の生活に影響を与えるものです。現在、諸外国と比べて高いといわれるわが国の電気料金について、会計学的側面から研究をすすめ、結果的に、間接的ではありますが、社会に貢献していきたいです。